

第 1 2 回 精華町上下水道事業審議会 議事録

日時

令和 7 年 1 1 月 5 日（水）午後 1 時 0 0 分～午後 2 時 3 0 分

場所

精華町上下水道部事務所 2 階 会議室

出席者

川勝委員、片上委員、矢野川委員、
岸田委員、白畑委員、高橋委員、田尻委員、村尾委員、

欠席者

杉浦委員

事務局

塚田上下水道部長、岡田経理営業課長、柴田上下水道課長、
佐藤経理営業課課長補佐、森経理営業課課長補佐、小林上下水道課施設管理係長、
岩井上下水道課施設管理係担当係長、林上下水道課施設建設係長、
下村経理営業課専門員、川嶋経理営業課専門員

傍聴者

なし

議事

1. 開会（司会：柴田課長）

開会宣言

2. 上下水道部長あいさつ

3. 委員の紹介

資料 1 により説明

4. 事務局の紹介

資料 2 により説明

5. 会長及び副会長の選出

審議会設置条例第 5 条の規定により会長及び副会長を選出

委員の互選により、会長に川勝委員、副会長に杉浦委員が選出された。

*川勝会長あいさつ （杉浦委員の副会長就任 事務局より連絡 承認済）

6. 議事

①精華町公共下水道事業第2次経営戦略について 資料3により説明

【主な質疑】

(村尾委員) 経営戦略の投資財政計画ではいろんなシミュレーションをしていると思うが、維持管理費について物価上昇を見込んで算出していると書いてあるが、最近の情勢も踏まえたものなのか、どういった物価上昇を見込んでいるのか？

(事務局) この第2次経営戦略については、令和7年3月作成となっているが、投資財政計画等のシミュレーションは、もっと前から作成しており、かなり前の物価上昇を考慮して作成しているので、現在の物価上昇は見込んでいません。この経営戦略では、水道ビジョンの計画人口推計と第6次総合計画の人口推計の両方を使用して投資財政計画を作成しています。令和9年度を目途に上下水道どちらの料金を先に改定すべきかを検討していくことになります。その時点で改定する方の投資財政計画を再度作成することとなりますので、その時に物価上昇等を考慮して作成していきます。

(矢野川委員) 30ページに経費回収率が100%となるよう令和10年度、令和15年度に使用料改定を検討すると書いてあるが、その前提となるシミュレーションを令和9年度にやるという考えだと理解してよいのか？

(事務局) はい、令和10年度に改定予定となると、議会承認も必要となることから、その前年度にはいろんなシミュレーションを進めることとなります。

(岸田委員) 同じく30ページにストックマネジメント計画の策定とあるが、かなり古い雨水ポンプ場があるが、その部分のストックマネジメントは完了していると理解してよいのか？

(事務局) 本町には、雨水ポンプ場が2箇所ありますが、その内、祝園ポンプ場においては、上流の河川工事がまだ完了していませんので、ストックマネジメント計画策定まで至っておりません。下粕ポンプ場につきましては、現在施設の更新に向けましてストックマネジメント計画の策定を行っております。

②令和6年度水道事業の決算について 資料4、5、6により説明

【主な質疑】

(村尾委員) 決算書4ページ営業費用が前年度に比べてかなり減っている、その理由は決算附属資料に書いてあると思うのですが、原水及び浄水費が減っていることが原因でその委託費が減少していると考えられます。そこで決算附属資料の8ページを見ますと下水道事業の7ページにある収益的支出には委託費の各

年度の費用が書かれているが、水道事業では委託費の費用が書かれていない。よって、継続的に減ってきているのか、この年度だけ増えたのか判らない。その内容は如何なものか？

(事務局) 委託料につきましては5年契約のものもあり、初年度は契約日の関係で減ることもありますし、請負率の関係で金額が上がることもあります。

また、委託の発注に際して人件費等の上昇もあり、全体的に委託費は増加している状況です。出来るだけ平準化していきたいと考えています。なお、水道事業の委託費についても、下水道事業と同様に記載するよう検討していきます。

(矢野川委員) 決算書を見ますと、増えました、減りましたと書いてありますが、その結果が良くなったのか、悪くなったのかが書かれていないので一般住民にとっては非常にわかりづらい。

(事務局) 基本的には住民の皆様を理解していただけるように資料を作成しています。わかりやすく作成していきたいと考えています。

(会長) 一般の人に馴染みのない資料になりますので、前年度に比べて改善したのかもわかりづらいところがあるように思います。

(矢野川委員) この資料だけをもってわかりづらいと話したが、他の資料でカバーしていただいていると理解はしています。

(会長) 実際上下水道の会計に特化した広報のようなものは作成しているのか？

(事務局) 定期的に報告している内容はありませんが、料金改定前には6回程度、広報誌で会計の内容を説明しています。また、議会からは会計に関する周知が必要と意見を頂いており、広報誌で上下水道の会計の内容を説明していきたいと考えていて、現在その準備を進めているところです。

(会長) 料金改定について審議会で答申をさせていただいて、その内容については既に説明済みだとは思いますが、その内容を町民の方に共有してもらうためにも、より一層の説明が町民の皆様の理解を生むことになりそうですし、また必要であると思います。今回広報に掲載されるということは良いことだと思います。

(田尻委員) 効率化が求められる中、AIやDX等を使う必要があると考えられると思うが、ライフラインなのでしっかりしたサイバー対策、例えば電力に対するサイバー攻撃があり、電気がストップした場合の対策などやっているのか、水道は安定供給できるのか？

(事務局) テロ対策について、水道は完全自動化で給水を行っており、外部電力で制御システムを運用している。その制御システムはスタンドアローンで運用し、外部から侵入はできないが、質問のテロ対策に関する安定供給については今後研究していきたい

と思っています。

③令和6年度公共下水道事業の決算について 資料7、8、9により説明

【主な質疑】

(岸田委員) 水道事業、下水道事業の決算を見ると、下水道は国庫補助金に頼っているところが大きいと思うが、上水道も国土交通省に所管替になっており、新たな補助金の導入とかの考えはあるのか？

(事務局) 水道事業の国庫補助金については、様々な交付要件がありますが、本町の水道事業の場合、直近で調べたところによると料金回収率が70%を切っていることが、要件を満たさない理由の1つとなっています。まずは料金回収率を100%以上にするという自助努力が求められている形で、現状では国庫補助採択が難しいケースが多いのが現状です。ただ、国庫補助金については、下水道事業と同様に、獲得できるものは獲得していく考えであり、現在、令和8年度予算において国庫補助金を活用していく事業も考えております。今後も事業毎に交付要件を確認し、出来る限り国庫補助金を活用していくよう進めてまいります。

(岸田委員) 水道事業に関しては今後かなり変わってくると思いますので、関係機関と十分な協議を進めていただけたらよいと思います。

(村尾委員) 企業債を継続的に利用されていますが、最近利率がかなり上がっていると思います、決算書36ページを見ると1.40%まで上がっています。利率がどんどん上がっていく中で今後どうしていくとかのお考えはありますか？

(事務局) 令和7年度の借り入れ時の利率は2.5%くらいになると見込んでおりますが、企業債以外でやっていくことは難しいため、少しでも利率の低いところで借りるということで借入先の検討を進めております。

下水道事業の場合、補助金以外のほとんどが企業債を財源としています。平成26、27年度くらいでは100億から110億円くらいの企業債残高がありましたが、令和6年度末で約80億円まで減ってきています。今後雨水ポンプ場の増設など大規模な雨水事業が続きますが国庫補助金を活用した上で、企業債の利率に注視しながら借入してまいります。

(田尻委員) 今後益々人口減少が進んでいくと考えています、それに併せて物価高騰を考えると単独で経営するのは難しいのではないかと、都道府県を超えた共同の経営も戦略として検討して頂ければと思います。

(片上委員) 議会での検討となるかもしれないが、去年から今年にかけて、物価も上がっているし、水道料金も改定されたが、母子家庭とか所得の低い方に向けて何か施策が打てないかなという思いがあ

る。基本料金の免除とかそういうことは出来ないか？

(事務局) 物価高騰対策として、今年度の4月5月の2か月分の基本料金免除に取り組んだが、国の補助金ありきであり、ご質問の内容は福祉施策に当たりますので、水道として実施することは難しいと考えます、町全体で考えることだと思いますので、このような意見があったということは福祉の担当の方に情報提供していきたいと思います。料金改定につきましては、全体では1.3倍程度となっていますが、月使用量が10m³以下の少量使用者については1.15倍となっており少量使用者に配慮した形となっています。

府内の市町村の水道料金を比較しますと口径20mm20m³の料金を比較しますと現在3番目に安い料金となっていますが、口径13mm10m³で料金を比較しますと府内で一番安い料金となっています。

(会長) 水道にしろ、下水道にしろ、経営ということを強く意識しておく必要がありますし、その大前提として安定供給、安定処理が非常に大事であると考えます。

長い時間軸でインフラというものを維持管理していくためには、短い時間軸での経営、長い時間軸での経営のバランスを考えていく必要があると思います。ダウンサイジングの問題や広域化の問題、人材育成、確保も含めて検討が必要ですし、そのタイミングも検討していく必要があると思います。

7. 閉会

以 上